

イベントレポート 『2012 K耐久東海シリーズ 第4戦』

開催日 2012年10月14日(日)

13:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 曇り

最高気温 22.2℃(13時)

場所 スパ西浦モーターパーク

参加台数 31台

2012年K耐久東海シリーズの第4戦が、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。空は薄雲に覆われていたものの、10月の過ごしやすい気候の中でのレースとなった。

シリーズも終盤に差し掛かり、各クラスとも僅差のポイント争いが繰り広げられている。第4戦でポイントを伸ばし、最終戦に向けて弾みを付けることが出来るのはどのチームか。



■ KNNクラス(軽NAのノーマルクラス)

第3戦終了時点のシリーズポイントは#16「ガレージイシヤマトウデイ」が48点、#100「HACもらいものビート」が47点と互角のトップ争いを繰り広げているが、ここ2戦は#16が勝利しており勢いがある。

今回は、初参加の#65「TS-3 トウデイ」と今年初参戦のNo.97「滝浪SPEEDトウデイ」を含む5チームがエントリー。2強に割って入るチームが出てくるのであろうか。

■ 予選

予選1位となったのはシリーズトップを走る#16「ガレージイシヤマトウデイ」。タイムは1'09.925で、前回に続きこのクラスで唯一10秒を切ってくる。

2番手には今年初参加となるNo.97「滝浪SPEEDトウデイ」が1'11.984で続き、トウデイが上位を独占する。

以下、3位の#100「HACもらいものビート」が1'14.891、4位の#383「カワセミブルーミニカ」が1'16.358、5位の#65「TS-3 トウデイ」が1'18.051で続く。

しかし、初参加チームや初参加ドライバーがいるチームは、予選を兼ねたフリー走行では完熟走行に徹する場合もあるため、予選のタイムだけでは決勝の行方はわからない。果たしてどのような決勝となるのか。

■ 序盤

1時間が経過した時点では、1回目のピットインを先延ばしにしたNo.97「滝浪SPEEDトウデイ」が、43LAPで頭一つリードする。これに39LAPの#100「HACもらいものビート」が2位で続く。

3位の#16「ガレージイシヤマトウデイ」と、4位の#383「カワセミブルーミニカ」は共に38LAP。5位の#65「TS-3 トウデイ」は36LAPに付ける。



■終盤

2 時間経過時点では、#16「ガレージイシヤマトウデイ」がトップに浮上してくる。周回数は 79LAP をマーク。

1 時間の時点ではトップに立っていた No.97「滝浪SPEEDトウデイ」は、77LAP の 2 位に後退し、3 位には#100「HACもらいものビート」が 76LAP で続く。

4 位の#383「カワセミブルーミニカ」も 75 周に付けており、表彰台争いはラスト 1 時間での勝負に。5 位の#65「TS-3トウデイ」は 70LAP にとどまり、表彰台はやや厳しくなってくる。



■最終結果

トップでチェッカーを受けたのは、114LAP を周回した#16「ガレージイシヤマトウデイ」。3 戦連続での優勝を飾り、シリーズポイントを大きく伸ばした。

トップを追い続けた No.97「滝浪SPEEDトウデイ」であったが、あと一歩届かず。113LAP の 2 位でフィニッシュとなった。

3 位には 112LAP を走行した#383「カワセミブルーミニカ」が入り、嬉しい今季初表彰台をGETした。

#100「HACもらいものビート」も 3 位と同一の 112LAP を走り切ったがわずかに届かず、今季初めて表彰台を逃す結果となった。

5 位の#65「TS-3トウデイ」は 104LAP の結果に終わったが、初参戦で完走フィニッシュを果たした。



今回の結果を受け、シリーズ優勝の可能性を残すのは 68 点の#16「ガレージイシヤマトウデイ」と、57 点の#100「HACもらいものビート」に絞られたが、自力優勝の望みがあるのは#16「ガレージイシヤマトウデイ」のみ。最終戦ではこの 2 チームのレース展開に注目である。



■ KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

ここまで 3 戦連続で表彰台に乗っている#60「明智自動車SPTウデイ」と、#25「アカミネコマルトウデイ」の 2 チームがシリーズリーダーの座を争っているこのクラス。

これを#911「CRAZYZYトウデイ1号」と#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」が追いかける。

今回 2 戦目のエントリーとなる#61「スマイルショップ多治見トウデイ」がこれらのチームに加わり、5 台による争いとなった。

■ 予選

予選 1 番手のタイムをマークしたのは#25「アカミネコマルトウデイ」。タイムは 1' 08.502 をマークする。

2 番手には#60「明智自動車SPTウデイ」が続く。その差僅か 0.075 秒の 1'08.577 で、シリーズトップ 2 台が予選から熱い戦いを繰り広げる。

3 番手は 1'10.059 で#911「CRAZYZYトウデイ1号」が、4 番手は 1'11.840 で#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」が入り、トップ2を追いかける。

5 位の#61「スマイルショップ多治見トウデイ」は 1' 13.079 で続く。

■ 序盤

1 時間経過した時点では 1 回目のピットインを先延ばしにする作戦に出た#60「明智自動車SPTウデイ」が 46LAP の 1 位で後続を大きく引き離す。

2 位の#25「アカミネコマルトウデイ」は 42LAP、3 位の#911「CRAZYZYトウデイ1号」は 41LAP、5 位と 6 位の#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」と#61「スマイルショップ多治見トウデイ」はともに 40LAP を走行。

ピット回数を考えればトップは独走とはいえ、各チームとも上位を狙えるチャンスがある。

■ 終盤

2 時間が経過すると、#25「アカミネコマルトウデイ」が 79LAP で 1 位に浮上してくる。しかし 2 位の#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」も 78LAP でトップと肉薄。

続く 3 位の#911「CRAZYZYトウデイ1号」は 76LAP、4 位の#61「スマイルショップ多治見トウデイ」は 75LAP、5 位となった#60「明智自動車SPTウデイ」も 74LAP に付け、勝負の行方はまだまだわからない。



■最終結果

中盤よりトップに立った#25「アカミネコマルトウデイ」が 118 周を走り切り、1 位でチェッカーを受けた。今シーズン、ここまで 3 戦連続で 2 位であったが嬉しい今シーズン初優勝となった。

終盤に追いつけた#911「CRAZYZYトウデイ1号」であったがトップには 1 周届かず 117LAP の 2 位でフィニッシュとなった。

3 位には 113LAP の#81「パイオニア・ワコーズ・エッセ」が入り、嬉しい今シーズン初表彰台をGETした。

4 位の#61「スマイルショップ多治見トウデイ」は表彰台まであと 1LAP 届かず、5 位の#60「明智自動車SPトウデイ」は 107LAP でレースを終了した。

今回の結果を受けて、シリーズポイント争いは#25「アカミネコマルトウデイ」が 65 点となり逆転でトップに立つ。しかし 2 位の#60「明智自動車SPトウデイ」も 5 点差に付け、自力優勝の可能性を残している。また、47 点で 3 位に付ける#911「CRAZYZYトウデイ1号」まではシリーズ優勝の可能性が残っているため、最終戦ではこの 3 台の順位から目が離せなくなりそうである。



■KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

今年初参加の#48「真和×コーギーライツビート」と、初参加の#102「ブラックジャックトゥデイ」の2台を含め、7台のエントリーとなったこのクラス。

シリーズポイントは#99「チームオーシャンズトゥデイ」と#23「チームミニトゥデイ」が揃って42点でトップを争っている。40点でシリーズ3位の#296「小山林業KO-Rトゥデイ」は今回欠場のため、シリーズ優勝は上位2チームに絞られた感が。

#38「デモリッションエグゼットゥデイ」と、2戦ぶりのエントリーとなった#880「タカタCCMCTゥデイ」はシリーズ3位を狙える位置に付けているだけに、今回の結果はシリーズを追う上で重要になってくる。それぞれの思いを乗せて第4戦の火ぶたが切って落とされた。

■予選

予選1位となったのは、#99「チームオーシャンズトゥデイ」。タイムは1'05.692で上位ポイント獲得に向けて好発進となる。

続く2位の#23「チームミニトゥデイ」も1'05.970で、#99の直後のグリッドをキープ。シリーズトップを争う2台が予選でも激しい争いを見せる。

予選3番手は#910「CRAZYレーシングビート」で、タイムは1'06.620を記録。トゥデイが多い中で少数派のビートが意地を見せる。4位には1'06.710で#880「タカタCCMCTゥデイ」、5位には1'07.985で#38「デモリッションエグゼットゥデイ」と、シリーズ3位争いをする2チームが続く。

以下6位に#48「真和×コーギーライツビート」、7位に#102「ブラックジャックトゥデイ」と初参加組が入ってくる。

■序盤

1時間経過時点では、46LAPの#99「チームオーシャンズトゥデイ」がなおも1位の座をキープ。2番手もトップと同一ラップで、#880「タカタCCMCTゥデイ」が浮上してくる。

3位の#910「CRAZYレーシングビート」も45LAPと、トップを確実に視野に入れる位置に付ける。予選2位スタートの#23「チームミニトゥデイ」は44LAPの4位に後退する。

5位の#38「デモリッションエグゼットゥデイ」は43LAPで表彰台圏内はこのあたりまでとなる。

6位の#102「ブラックジャックトゥデイ」は39LAP、7位の#48「真和×コーギーライツビート」は38LAPと、表彰式圏内争いを繰り広げる。

■終盤

2時間経過時点での1位は87LAPを周回した#99「チームオーシャンズトゥデイ」で、頭一つリードを見せる。続く2位には84LAPで#910「CRAZYレーシングビート」が浮上してくる。

3位と4位は83週の同一ラップ。3位に#880「タカタCCMCTゥデイ」、4位に#23「チームミニトゥデイ」と続く。

以下、5位の#38「デモリッションエグゼットゥデイ」が77LAP、6位の#48「真和×コーギーライツビート」が76LAP、7位の#102「ブラックジャックトゥデイ」が74LAPで、表彰式を目指して3チームでの争いとなる。



■最終結果

決勝途中は目立つポジションにいなかった#880「タカタCCMCTウデイ」であったが、ピットインを上手く使い、最終的にトップでチェッカーを受けた。125周を走り切り、嬉しい今季初優勝を飾った。

2位には終盤に猛然と追いつけた#23「チームミニトウデイ」が123LAPで入り、3戦連続での準優勝となった。

3位の#99「チームオーシャンズトウデイ」も2位と同一の123LAPを走り切ったが、2位までは僅か8秒届かなかった。

また4位に入った#910「CRAZYレーシングビート」も2、3位と同じ123LAPを周回したものの、3位に僅か6秒届かず、表彰台を逃してしまった。

5位には117LAPで#38「デモリッションエグゼトウデイ」が、今季初参加の#48「真和×コーギーライツビート」は115LAPの6位、初参加の#102「ブラックジャックトウデイ」は110LAPの7位でフィニッシュとなった。

今回の結果を受けてシリーズポイント争いは、#23「チームミニトウデイ」が57点で1位、#99「チームオーシャンズトウデイ」が54点で2位となった。

また3位の#296「小山輪業KO-Rトウデイ」が40点、4位の#880「タカタCCMCTウデイ」が35点、5位の#38「デモリッションエグゼトウデイ」が32点と、3番手争いも激しくなっている。

いずれの争いも最終戦の結果次第で決着が付くため、最終戦はいつも以上に緊迫した戦いとなりそうである。



■ KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

今回は 9 台がエントリーし、K耐久で最大の激戦区となったKTCクラス。ここまで3戦、それぞれ違ったチームが優勝していることからわかる通り、多くのチームの実力が非常に接近している。

3戦目終了時点でのシリーズポイントは、#46「カーエナジー・アルトワークス」と#392「Zammersヴィヴィオ」が 39 点でトップを争っている。これを2点差で#95「DXLマックイーンカプチーノ」が追いかける。

また4位の#330「DXLミヤマカプチーノ」も30点、5位の#112「白須賀会カプチーノ」も28点と、シリーズ優勝を狙える位置に付けている。果たして最終戦まで優勝争いに残れるのはどのチームか。



■ 予選

予選1番手となるタイムを出したのは#95「DXLマックイーンカプチーノ」。タイムは1'07.008をマークする。

2番手にはわずか0.1秒差で#330「DXLミヤマカプチーノ」が続く。3位には1'07.875で#46「カーエナジー・アルトワークス」が、4位には1'07.983で#93「マリンダイビングアルト」が続き、このクラスの上位4台は連続グリッドからのスタートという接戦ぶり。

以下5位に1'08.201の#392「Zammersヴィヴィオ」、6位には今季初参加の#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」が1'08.891で続く。



■ 序盤

1時間が経過した時点では、43LAPで#46「カーエナジー・アルトワークス」と#95「DXLマックイーンカプチーノ」がトップ争いを繰り広げる。

これを1周差で3チームが追いかける。3位に#93「マリンダイビングアルト」、4位に#392「Zammersヴィヴィオ」、5位に#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」と続く。

6位の#112「白須賀会カプチーノ」と7位の#21「ZESTルブロスセルボ」も41LAPと、まだまだ上位を狙えるポジションに付ける。



■ 終盤

2時間経過時点では#95「DXLマックイーンカプチーノ」がトップに立つが、#46「カーエナジー・アルトワークス」も同一周回でピタリとマークする。

続く3番手争いは非常に熾烈で、5チームが80LAPで並ぶという状態。#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」の3位を筆頭に、4位に#93「マリンダイビングアルト」、5位に#392「Zammersヴィヴィオ」、6位に#21「ZESTルブロスセルボ」、7位に#112「白須賀会カプチーノ」と続く。8位の#330「DXLミヤマカプチーノ」も79LAPに付けており、表彰台と表彰圏外は紙一重の状態。



■最終結果

このクラス、トップでチェッカーを受けたのは#46「カーエナジー・アルトワークス」であった。122周を走り切り、第2戦以来の2勝目を飾った。

続く2位には121LAPの#95「DXLマックインカプチーノ」が入った。毎回優勝に絡む走りを見せながら、今季初優勝はまたもお預けとなった。

3位には今季初参加となる#44「館山寺近藤自動車板金ヴィヴィオ」が120LAPで続いた。

4位と5位はともに119LAPで、#392「Zammersヴィヴィオ」、#93「マリンダイビングアルト」と続いた。

6位から8位までも118週の同一ラップとなったが、表彰圏内は6位まで。この争いを制したのは#330「DXLミヤマカプチーノ」で、#112「白須賀会カプチーノ」と#21「ZESTルブロスセルボ」は僅差で涙を飲んだ。

今回の結果を受け、シリーズポイント争いは#46「カーエナジー・アルトワークス」が59点で一歩リード。これを52点の#95「DXLマックインカプチーノ」と49点の#392「Zammersヴィヴィオ」が追いかける。

第3戦終了時点では多くのチームにシリーズ優勝の可能性が残っていたが、第4戦を終えて優勝争いはこの3チームに絞られた。最終戦でも接戦が予想されるこのクラス。最後に笑うことができるのはチームとなるのか。



■KTOクラス(軽ターボのオープンクラス)

今回は 5 台のエントリーとなったこのクラス。初参加のチームは無く、全チームともまとまったポイントを持つ実力あるチームが集まった。

シリーズポイント争いは、#210「ZESTルブロスDXLアルト」が 48 点で頭一つリードし、これを 39 点の#8「DXLグローバルカップチーノ」と、37 点の#777「ナルミファクトリーアルト 1 号車」が追いかける。28 点で 4 位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」までがシリーズ優勝の可能性を持つが、第 4 戦で優勝争いに残れるのはどのチームとなるのか。

■予選

予選 1 位となったのは#210「ZESTルブロスDXLアルト」でタイムは 1'04.750 を記録する。総合でも 1 番手となるタイムで、見事ポールポジションを獲得する。2 位の#8「DXLグローバルカップチーノ」は 1 位から遅れることわずか 0.13 秒の 1'04.887 で、トップと同じく最前列のグリッドを獲得する。

3 位には 1'05.227 で#777「ナルミファクトリーアルト 1 号車」が、4 位には 1'05.525 で#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」が続き、ここまでシリーズ順位そのままのオーダーとなる。

5 番手の#666「ヴィスコンティIMWあると」も 1'06.315 で上位陣を視野に入れながらのスタートとなる。

■序盤

序盤、本日のベストタイムとなる 1'03.852 をマークした#777「ナルミファクトリーアルト 1 号車」が 1 位に躍り出る。しかし 1 時間を目前にしてマシントラブルのために戦列を去ってしまう。

1 時間時点で 1 位に立ったのは、ポールスタートの#210「ZESTルブロスDXLアルト」。周回数は 45LAP を記録する。

2 位には 44LAP で#8「DXLグローバルカップチーノ」が続きトップの座を虎視眈々と狙う。

3 位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」も 2 位と同一周回。新規格車に与えられるピット時間 1 分削減のハンディーをもらっているとはいえ、前回までより明らかにポテンシャルが上がっている印象を受ける。

4 位の#666「ヴィスコンティIMWあると」も 43LAP に付け、表彰台を狙える範囲に付ける。

■終盤

2 時間が経過してもなお#210「ZESTルブロスDXLアルト」が 1 位の座を守り続ける。86LAP を走行し 2 位に 1 週の差を付ける。

2 位の#8「DXLグローバルカップチーノ」と 3 位の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」は共に 85LAP でトップを追いかける。4 位の#666「ヴィスコンティIMWあると」も 1LAP 差をキープして、3 位表彰台を狙い続ける。

序盤の順位と変動が無いまま終盤に突入となるが、ラスト 1 時間で順位の入替わりはあるのか。



■最終結果

終始僅差の勝負となったこのクラス。最終的にも1位から3位までが126LAPの同一周回数という接戦となった。

この争いを制したのはポールポジションからスタートした#210「ZESTルブロスDXLアルト」で、3戦連続での優勝を手中に納めた。

2位に入ったのは#8「DXLグローバルカップチーノ」。安定した速さが身上のこのチーム、今回も常に上位をキープしたが、優勝までは30秒ほど届かなかった。

3位には#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」が入り、嬉しい今季初表彰台を獲得した。3位に終わったもののトップと同一周回を走行し、以前よりも速さが1ランクUPしたことを強く印象付けた。

4位には125LAPで#666「ヴィスコンティIMWあると」が入る。第2戦でのリタイヤから2戦ぶりに復帰を果たしたが、本調子まではあと一歩といったところか。

シリーズポイント争いは、今回優勝した#210「ZESTルブロスDXLアルト」が68点で2位以下を大きくリードした。2位の#8「DXLグローバルカップチーノ」は54点であるため#210が圧倒的に優位であることは間違いない。

また40点の#32「爆走あばれ馬DXLミニカ」と、37点の#777「ナルミファクトリーアルト1号車」の2チームが3位争いを繰り広げるが、#666「ヴィスコンティIMWあると」も30点に付けているため一発逆転での3位も有り得る。

最終戦では、速さはもちろんであるが確実に結果を残すことも非常に重要となり、各チームはシビアなレースを要求されることになりそうである。

